

# 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の評価・意見	次年度への課題と今後の改善方策
基本的な生活習慣の確立を図り、望ましい校風を樹立する。 （挨拶の励行）	①挨拶を励行する。 ②出席率を向上させる。 ③個人面談を充実させる。	<b>評価指標</b> ①日常生活における挨拶を励行することで基本的な生活習慣を確立する。 ②さわやかで活力あふれる富東生を目指し、出席率を80%以上とする。 ③個人面談を実施し、生徒とコミュニケーションを図ることにより、生活習慣・学習状況等の把握に努める。	<b>評価指標の達成度</b> ①登校時の挨拶指導で、生徒から教員へ話しかける場面が多く見受けられた。 ②2学期末現在の全学年の出席率は90%である。全ての学年で80%を上回ることができた。（昨年同期82%） ③各学期当初の個人面談によって、生徒の生活習慣や学習状況等を把握し、適切な指導を行った。	<b>総合評価（評定）</b> A ----- <b>（所見）</b> 出席率も向上し、生活習慣改善は目標を上回ることができた。挨拶指導や個人面談を通じ、良好な関係が醸成されている。	現在の生徒の状況下での出席率90%は、生徒の努力と先生方の懸命な指導の成果と捉えている。来年度も引き続き、充実した面談と挨拶指導等で、生徒1人1人の心のケアや、居場所作りに努めて欲しい。
		<b>活動計画</b> ①毎日の昇降口指導を実施し、生徒への声掛けを積極的に行う。 ②各学期毎に、個人面談週間を設定し実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①毎日、できるだけ多くの教員で校門及び昇降口指導を行った。 ②年間3回の個人面談を実施した。		
職業と学業を両立させるたくましい精神力と豊かな人間性を育成する。	①たくましい精神力の育成に向けて、健康相談・教育相談を充実させる。 ②関係諸機関との連携により、個々の生徒に応じた就労支援を行う。	<b>評価指標</b> ①課題の把握により、教職員の共通理解を図り、支援方針を立て解決を目指す。 ②就労生徒へのサポートを行い、職業と学業の両立を図る力を育成する。	<b>評価指標の達成度</b> ①12月末現在の生徒の「健康相談」の件数は、2件であったが教職員間で共通理解を図り、日常的に支援している。（昨年1件） ②就労率は12月末現在で45%であった。仕事を継続していきたい。（昨年63%）	<b>総合評価（評定）</b> B ----- <b>（所見）</b> 生徒の現状を把握し、教職員の共通理解を図り、適切な対応をすることができた。	様々な事業や外部関係諸機関との連携することで、学校が生徒にとって心地よい学びの場となっている。来年度も継続して、連携を深めて欲しい。 以下、フィードバックし指導に生かす。 ①カウンセリング的「健康診断」の継続 ②多様性に応じた新事業による講演 ③就労意識高めるHR活動 ④ハローワークとの連携 ⑤「自尊感情測定尺度」アンケート及び分析
		<b>活動計画</b> ①職員室隣室を必要に応じて使用し、スクールカウンセラーと協同して支援にあたる。 ②関係諸機関と連携し、就労に関する情報の収集を行い、個々の生徒に応じた就労相談・職場訪問や開拓等を推進する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①生徒が何か悩みを抱えている時は、早めに話を聞くなどし、スクールカウンセラーと連携を図りつつ、計画どおり実施した。 ②ハローワーク等とも連携し、個別相談を行ったり、就職相談会や企業見学に参加する生徒を引率するなど就労支援に努めた。		
生徒一人一人の基礎学力の向上と進路指導の徹底を図る。	①「漢字スキル学習」を中心に、基礎学力の向上を図る。 ②各種資格試験や検定試験にチャレンジさせ、知識・技能の向上を目指す。 ③ICT機器を有効に使用し、スキルアップを図る。	<b>評価指標</b> ①漢字スキル学習では、各自に応じたレベル別の課題に取り組み、40%以上の生徒が上のレベルに上がることを目指す。 ②各種資格試験や検定試験の受検者数のべ6人以上を目指す。 ③各授業でのICT機器の活用率20%以上を目標とする。	<b>評価指標の達成度</b> ①漢字スキル学習では60%以上の生徒が上のレベルに上がる事ができた。 ②各種試験の受験者数はのべ7人で、合格率は、12月末現在100%であった。スキルアップを目指し、学習意欲の向上に努めた。 ③2学期末時点における各授業でのICT機器の活用率は45%であった。	<b>総合評価（評定）</b> B ----- <b>（所見）</b> 年間を通じたそれぞれの活動を通じて、自己肯定感の向上や、卒業後の進路への展望をもたせることができつつある。	学校評価アンケートから、生徒達は向学心を持って基礎学力の向上に取り組んでいることがうかがえる。又、将来を見据えて、各種資格試験や検定にチャレンジする者が増えてきている。これから必須となるICT機器の扱いについても、生徒のスキルアップを目指して、更に充実させて欲しい。
		<b>活動計画</b> ①個々に応じた指導を心掛け、毎日の「漢字スキル学習」に取り組み、丁寧に字を書く練習を行うと共に、各教科担当教員と協力し受検奨励及び対策を行う。 ②資格試験の勉強や予習・復習を意欲的に取り組めるようにプリント等を準備し、基礎学力の定着を図る。 ③情報の授業を中心に、ワード・エクセル・パワーポイントのスキルアップを図る。	<b>活動計画の実施状況</b> ①毎日の「漢字スキル学習」に加え、日本漢字能力検定やビジネス文書実務検定等の受検を奨励し、対策を指導した。 ②資格試験については、始業前に個別指導を行い、授業については、プリント配布に加え、今年度設置の電子黒板、生徒用タブレットを利用し、基礎学力の定着を図った。 ③全教職員で連携して取り組み、生徒のスキルアップに努めた。		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の評価・意見	次年度への課題と今後の改善方策
家庭や地域社会との連携のもとに生徒指導の充実強化に努め、安全指導の徹底を図る。	①安全教育の啓発を行うと共に、災害時の対応力を養う。 ②生徒の情報共有のための職員打合せを毎日実施し、個に応じた生徒指導を徹底する。	<b>評価指標</b> ①安全教育の授業や防災・避難訓練と心肺蘇生・AED講習をそれぞれ年間3回行う。 ②生徒の情報共有のための職員打合せを毎日2回行い、生徒一人一人の課題に応じて、教員全員で粘り強く指導にあたる。 <b>活動計画</b> ①年間計画に沿った安全教育や防災・避難訓練を通じて、災害に対する事前準備と、災害発生時の正しい対応力を身に付けさせる。 ②生徒の情報共有のための職員打合せを毎日実施し、様々な情報を共有することで、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	<b>評価指標の達成度</b> ①防災・避難訓練と心肺蘇生・AED講習を年間合計3回実施した。 ②毎日2回の打合せにより、12月末現在の生徒の情報共有数はのべ62名であり、教職員間で共通理解を図った。(昨年74名) <b>活動計画の実施状況</b> ①命や生活の大切さを考えさせ、自主的に安全な行動ができるよう指導した。 ②生徒の情報を教職員間で共有し、話し合いを重ね、きめ細かな指導に結び付けた。	<b>総合評価(評定)</b> B ----- <b>(所見)</b> 防災・安全教育を通し、安全意識の向上に取り組むことができた。又、家庭との連携も密にすることができた。	学校評価アンケートからも、家庭との連携を密にとれていることがうかがえる。更に教員間での情報共有により、細やかな生徒指導ができています。それらを基に、さらなる安全教育の充実に努めて欲しい。 ①家庭の状況が生徒に及ぼす影響 ②中学校までの様々な経緯 ③本人の健康状態等、生徒指導困難となる様々な要因 等を考慮し、十分情報共有を行い、きめ細やかな指導を継続する。
教育活動の全領域において人権教育の徹底を図る。	①いじめ等の問題行動の未然防止に努める。 ②人権講演会や職員研修を充実させる。	<b>評価指標</b> ①いじめ・悩みアンケートを年間3回、基本的生活習慣調査を年間1回、それぞれ実施し、それを基に面接を行うことで細かい対応をする。 ②人権講演会を年間2回実施し、人権講座等の研修会に全教職員が1回以上参加する。 <b>活動計画</b> ①各種アンケートを実施し、生徒の状況把握に努める。 ②研修受講後も意見交換をきめ細かに行う。	<b>評価指標の達成度</b> ①当初の計画どおり各学期にいじめ・悩みアンケートを、1学期に基本的生活習慣調査を実施し、面接等で丁寧に聞き取りをした。 ②外部講師による人権講演会を2回実施した。 <b>活動計画の実施状況</b> ①把握した生徒の状況については教職員間で共通理解を図り、解決に向けて取り組んだ。 ②研修受講後のまとめや伝達により、教職員間で情報の共有を図った。	<b>総合評価(評定)</b> A ----- <b>(所見)</b> アンケート後の面接で丁寧な聞き取りをし、生徒の状況把握及びフォローを行った。	学校評価アンケートからも、生徒に対しての人権教育の充実ぶりうかがえた。生徒を優しく包むことのできる教育現場を作ることで、生徒が安心して学ぶことができるよう継続して行って欲しい。 アンケートや日頃の観察から、小さな芽も見逃さないきめ細やかな対応ができるよう、全教職員が継続して取り組む。
生徒の個性と自主性を開発伸長させ、有為な社会人を育成する。	①地域の清掃ボランティア活動への参加を促す。 ②個性発揮の機会として、定通連の美術作品展や球技大会等への参加を奨励する。	<b>評価指標</b> ①清掃ボランティア活動を年間1回実施する。 ②定通連球技大会への出場を15%以上、美術作品展への出品数を20以上にし、様々な校外行事への参加率を55%以上とする。 <b>活動計画</b> ①地域の清掃活動へ参加することで地域社会に貢献し、社会への主体性と奉仕の精神を養う。 ②美術作品作りや球技大会の練習等について、各教科の教員にも協力を得る。	<b>評価指標の達成度</b> ①11月に清掃ボランティア活動を実施し、地域の清掃活動に取り組んだ。 ②定通連球技大会は23%出場、美術作品展の出品数は25、入賞数は0、校外行事への参加は76%であった。 <b>活動計画の実施状況</b> ①校舎周辺や地域の清掃活動に取り組み、社会参加への主体性と奉仕の精神を養った。 ②校内フォトコンテストは実施することができた。作品展には家庭科教員の協力を得て手芸作品を出品することができた。	<b>総合評価(評定)</b> A ----- <b>(所見)</b> 様々な体験的行事を開催することは、生徒にとって有意義であった。	清掃ボランティアでは阿南駅を清掃し、職員の方にも大変喜ばれている。社会貢献の体験や各催しへ参加することで、奉仕の精神や自主性を高め、社会人としてのマナーも身につけて欲しい。 厳しい家庭環境等で社会体験等が乏しい生徒にとって、種々の活動を通して達成感や喜びを味わうことにより、他のことも積極的になり、自己肯定感を高めるなどの相乗効果が期待できるため、継続した取り組みを行う。
教職員の資質向上と、教職員の働き方改革を推進する。	①様々な研修を受講し、各自のスキルや意欲の向上を図ると共に、会議やOJT等で共有を図る。	<b>評価指標</b> ①教員研修を様々な形態で20回以上実施することにより研究と修養に努め、教員の資質と専門性の向上を図る。 <b>活動計画</b> ①全教員が各研修を積極的に受講し、実践力を高める。 ②始業時と終業時の毎日2回の打合せやOJTにより、研究と修養に務める。	<b>評価指標の達成度</b> ①校内コンプライアンス研修を1/27現在で21回実施した。また、Web会議も含め、校外での様々な研修にも参加し、資質・能力や専門性の向上に努めることができた。 <b>活動計画の実施状況</b> ①全教員が意欲的に各研修を受講し実践力を高めた。 ②打合せやOJTにより、情報共有を行い、一人ひとりの生徒の課題に対応したきめ細かな指導を行うことができた。	<b>総合評価(評定)</b> B ----- <b>(所見)</b> コロナ対策を取る難しい状況を職員一丸となって対処することができた。	学校行事や業務内容の点検を引き続き職員全員で実施し、勤務の効率を向上させ、働き方改革の推進につなげる。 新型コロナウイルス感染予防等に伴う緊張と責任のストレスは大変大きかったと推測される。これからは教職員全員で協力し、資質向上と働き方改革を推進して欲しい。